

平成18年7月25日

各位

会社名 株式会社 三ツ星  
 代表者名 代表取締役社長 塚本 洋一  
 (JASDAQ・コード5820)  
 問合せ先 執行役員経理部長 塚本 一男  
 TEL 06-6762-6939

平成19年3月期中間期(連結・個別)及び  
 通期(連結・個別)の業績予想の修正に関するお知らせ

平成18年5月22日付当社「固定資産譲渡及び業績予想の修正について」にて発表いたしました平成19年3月期(平成18年4月1日～平成19年3月31日)中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

[ ] 連結業績予想の修正

(1) 中間期(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	5,042	43	36
今回修正予想(B)	5,785	100	71
増減額(B-A)	743	57	35
増減率	14.7%	132.6%	97.2%
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期中間期)	4,562	2	8

(2) 通期(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	10,053	79	39
今回修正予想(B)	11,599	126	71
増減額(B-A)	1,546	47	32
増減率	15.4%	59.5%	82.1%
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期)	9,565	54	7

[ ] 個別業績予想の修正

(1) 中間期(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	4,692	42	44
今回修正予想(B)	5,377	89	74
増減額(B-A)	685	47	30
増減率	14.6%	111.9%	68.2%
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期中間期)	4,228	0	0

(2) 通期(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	9,371	82	59
今回修正予想(B)	10,832	119	85
増減額(B-A)	1,461	37	26
増減率	15.6%	45.1%	44.1%
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期)	8,890	63	29

[ ] 業績予想の修正理由

平成19年3月期の業績につきましては、平成18年5月22日に公表いたしました予想を修正し、中間期（平成18年4月～平成18年9月）は増収増益の売上高5,785百万円、経常利益100百万円、中間純利益71百万円、通期（平成18年4月～平成19年3月）も増収増益の売上高11,599百万円、経常利益126百万円、当期純利益71百万円といたします。

売上高が順調に推移したことに加え、経常利益、当期純利益も前回予想を上回るものと見込まれます。その主な要因は、第1四半期の電線事業において堅調な設備投資を背景に、電線の需要が引き続き好調に推移したことに加え、高騰した銅価格を製品価格に転嫁することに注力した結果であります。今後、企業収益の伸び率が低下することから、電線事業に深く関係する設備投資は高い伸び率を維持することが困難になると見込まれます。また、高騰し高止まりする銅や石油化学製品などの原材料価格の動向は予断を許さない状況が続くと思われます。そのため、顧客満足を得る製品の提供を目指し、積極的な提案型営業を展開するとともに、適正な販売価格の維持に努めることにより増収を見込んでおります。

ポリマテック事業においては、厳しい価格競争が続くなか、石油化学品の値上がりによる原材料価格の上昇分を吸収することと製品価格への転嫁に注力するとともに、生産性と効率性を重視した生産体制への移行と経費の削減に努めていきます。

その他事業における高機能特殊チューブに係わる事業は、特長ある高機能タイプに中機能タイプの製品を加え、さらに顧客の要望に応え新規顧客の開拓を促進することにより増収を目指します。また、電熱線・帯及びステンレス鋼線・帯に係わる事業では、原材料であるニッケルの価格が急騰していることや原材料の不足感が強まりつつあることなど、先行き不安要因はあるものの、当分需要は底堅く推移するものと予測されることから増収を見込んでおります。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算定しており、今後の経済状態等の変化により、実際の業績は予想値と異なる結果となる場合があります。

以上